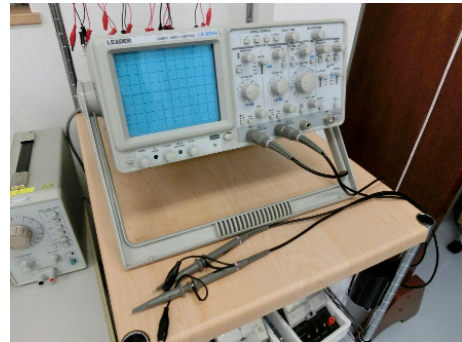


## ■実験機器情報■ 気柱共鳴装置 RT-50N (ナリカ社)

〔詳細〕

### 【購入意図】

ブラウン管型のオシロスコープは学校の実験室でどのくらい残っているのだろうか。購入するのに10～20万円位の費用がかかった。理振がほとんど期待できない今日では買い換えが難しいのではないかと思う。私は、個人的に買った。実験の開発のために安価で買った。



【製品名・価格】リーダー電子 50MHz オシロスコープ LS8050 他社の同等品は125,000円

＜内容＞ 本体, プローブ×2

【使用結果】いろいろな実験に問題なく使っている。今日の主力はデジタル型で同じ機能でもブラウン管型の半分程度の値段ででている。ただ、電子線が電界によって偏向される原理を説明するには、デジタルという訳にはいかないが。波動や電気分野で使われることが多いが、アナログであろうがデジタルであろうが、50MHz-2現象という条件は確保したいところだ。アナログ型は輝点がブラウン管上を動き時間の経過と電圧の変化をリアルタイムで表しているという感がある。デジタル式はデータロガーと同じ原理と考えて良く、利点はデータを蓄積できるので、波形そのものとして画面表示が可能であるのと周波数カウンターが付いているので音の実験において共鳴周波数の測定ができる可能性がある。なお、ハンディータイプの機種やアプリでコンピュータに表示できるものも周波数の低い領域では使えるので、実験に応じて利用したいところだ。研究中。